

# 老健みやざき

第21号 平成22年4月



## ～第7回宮崎県老健協会研究大会開催～



(研究発表者の皆さん)

- 第7回 (社)宮崎県老人保健施設協会研究大会特集
- 高齢者の栄養を学ぶ  
～栄養・給食研究部会研修会～
- 施設も在宅も地域の仲間!  
～在宅支援研究部会研修会～
- ケアプランもCHANGE!!  
～新全老健ケアマネジメント方式“R4”～
- 企画広報委員会視察研修報告
- リレーコーナー
- 人気のオリジナルメニュー

# 真のケアの魅力とは？

～ 講演、発表、白熱の360分～

社団法人宮崎県老人保健施設協会（大野和男会長）は、3月16日、宮崎市の宮崎観光ホテルで、第7回研究大会を開いた。県内38施設から285人が参加。講演会や研究発表を通じて研鑽を深めた。また、日頃接する機会が少ない他施設スタッフとの意見交換を通じ、日頃業務を行う上での悩みや問題を出し合い、解決の糸口を探るなど、老人保健施設の将来の展望をも見すえた交流の輪が広がり、実りの多い大会となった。

今回のテーマは「『夢と希望に満ちあふれた老健施設へ』～真のケアの魅力とは」。開会に当たり、大野会長は、「介護保険制度が始まって今年で10年。一つの区切りを迎えたと言える。その間、老人保健施設の果たす役割はますます重要となってきている。課題は山積してい



るが、今日は関連な意見交換をして欲しい」と、積極的な大会への参加を訴えた。続いて、社会医療法人財団天天堂の松本文六理事長が、『“老いの守りびと”としての老健に』と題し、特別講演。介護保険の理念の変遷と利用の実態、これからの高齢者の生きる世界、高齢者は何を望んでいるのか？——を踏まえ、“老いの守り



びと”としての老健になるためには、老健が地域包括ケアの核となることが重要であると説明。そして、「病院や診療所および他介護施設・事業所等との役割分担と連携をはかるとともに、お年寄りの生き甲斐を引き出し、支え、共に生

きるためのSpiritual Care（心のこもったケア）を提供しよう」と提唱。さらに、「これを合言葉にやっていけば、老健はもっと進化するし、皆さんも生き甲斐をもって高齢者に接していくことができる」と、利用者のみならず老健職員自らのためにも、その実践を呼びかけた。また、若い職員に対し、高齢者と接する心構えとして、「高齢者の時代背景を知ってほしい。そのためにはお年寄りが心を開くためのきっかけを作ってやるのが大事。詳しく勉強



「老健は“老いの守りびと”になるう！」と呼びかけた講師の松本理事長

しなくても、『昔、こんなことがあったんでしよう？』と問いかけるだけで、記憶や経験を引き出すことができるとアドバイスした。その後の研究発表には、26の演題申し込めがあり、3つの分科会で、発表者と参加者が一体となった発表と質疑応答が繰り広げられた。



大野会長の挨拶で「熱い」6時間は始まった

## 【研究発表ありがとうございました！】 [発表者氏名(施設名)「演題」の順、敬称略]

【第1分科会【看護・介護】【高齢者ケアプラン】座長：山口政仁（なでしこ園理事長）】緒方清孝（並木の里）「ターミナルケアへの取り組み—ケアマネジャーの視点から」／渡邊美保子（ひむか苑）「もっと私を知って」／小野美穂子（菜花園）「高齢者ケアプラン研究部会における現状と課題」／大迫由美子（相愛苑）「白癩菌対応マニュアルの見直し—フラットケアの観点から—」／両角悦子（サンビュー宮崎）「初めての看取り経験—職員意識調査より—」／月野義彦（さわやかセンター）「利用者様と職員の幸せを目指して—新たな委員会・チームの発足—これからの課題—」／佐藤榮起（サンビュー宮崎）「入所者の入浴に対する満足度調査—ゆっくり入れるって気持ちいいわ—」／石田朋香（青島シルバー苑）「超ラップ療法取り組みについて」／清水一美（サンビュー宮崎）「家族と介護老人保健施設のあり方—外出・外泊に関するアンケートから見えるもの—」／【第2分科会【看護・介護】座長：野崎藤子（シルバーケア野崎理事長）】加賀澤さおり（春草苑）「当施設のターミナルケアの取り組み」／森さつき（なでしこ園）「人間らしい生活を—口腔ケアで体もスッキリ—」／河野仁孝（菜花園）「持ち上げない介助—ベッドから車いす—」／竹ノ内健昭（サンヒルきよたけ）「『気づけ危険のサインに！』—リスクマネジメントへの歩み—」／金丸幸成（春草苑）「心理的な身体拘束、行動抑制を未然に防ぐために—自己評価と他者評価を通して—」／河島康太（ラポール向洋）「利用者様との関わりをコミュニケーションから考える」／飯塚美喜子（春草苑）「看護介護研究部会活動報告—より良い職場環境づくりのために—」／長峰猛（さざんか苑）「KYTで環境は変わる」／【第3分科会【栄養・給食】（在宅支援）【支援相談】【リハビリテーション】【その他】座長：瀧井修（慶徳理事長）】中村まり（サンヒルきよたけ）「『チームアプローチの観点から』—在宅支援に向けた取り組み—」／竹田洋子（ハイム苑）「在宅復帰」／清徳昭（むつみ苑）「支援相談員の悩み—他の施設のことが知りたい—」／納富洋子（ひむか苑）「独自ソフトの開発—高齢者ソフト食の提供による栄養マネジメントの現状—」／岩切清華（なでしこ園）「『ミキサー固形食への取り組み』」／甲斐俊次（神楽苑）「浮腫療法の実施と経過—日常生活動作への影響—」／前田明人（グリーンケア学園木花）「リハビリテーション研究部会の活動について」／後藤孝広（菜花園）「作業活動参加者と不参加者とのストレスの違い」／新村博史（こんにちわセンター）「企画広報委員会活動報告」

## 【新理事に野崎氏】 ～第22回総会～

大会に先立ち、(社)宮崎県老人保健施設協会第22回総会が同ホテルで開かれた。平成22年度事業計画案および同予算案が上程、可決された。



また、平成22年度役員選任案に関し、協会新理事として、シルバーケア野崎の野崎藤子理事長が選ばれ、就任することとなった。



「かんぱーい！」



サンビュー宮崎 上村政人さんの「施設紹介」。盛りだくさんの行事をムービーに仕上げて上映。会場はさながら結婚披露宴！



さざんか苑 米良忠浩さんは、チェロ演奏歴20年超。施設での演奏会も好評です！！



サンヒルキよたけ“参拝流組(さんひるぐみ)”。「南中ソーラン」の激しい踊り。



はげしいーっ！



食わんと踊れん！



無礼講です。

講演・分科会の熱気は、夜のレクリエーション研究発表の部に引き継がれ、最高潮を迎える。5施設、31名の芸達者が、日頃利用者を喜ばせているその様子を実演。同時に、会場では施設の枠を越えた交流が深まり、有意義な情報交換の場となった。



慶稷塾による勇壮なエイサー。その活動範囲は、施設内にとどまらない。



座長、乾杯、琉球太鼓…。この日の瀧井理事長は八面六臂(はちめんろっぴ)の活躍。



迫田耕一朗協会副会長が閉会の挨拶。充実の三六〇分に幕が下ろされた。



サンフローラ宮崎の“ケイメイ・ダンス・パフォーマンス”。「一糸乱れぬ」とはこのことか。「まつりえれこっちゃんみやざき」での受賞歴もうなすける。



## 高齢者の栄養を学ぶ

### ～栄養・給食研究部会研修会～

宮崎県老健協会栄養・給食研究部会の研修会が2月9日、宮崎市の宮崎第一ホテル「はまゆうの間」で25施設の栄養士が参加して開催された。



熱心に聴き入る参加者

まず、「高齢者栄養教室開催について」担当（中央ブロック）ひむか苑の納富祥子さんが報告。高齢者ソフト食の調理実習と、黒田留美子さんの講話があり、参加者から大変喜ばれたとのことであった。また、高齢者栄養教室の目的が、食事を通して地域の高齢者の在宅支援を行う事であることを強調。「高齢者の食事作りで困っている人や、興味のある人に参加してもらい、高齢者の食事作りに少しでも役立てて欲しい、との思いで活動している」と、同教室が、地域密着型の事業である事を力説した。

次に、大分県福祉栄養士協議会研修会参加報告を慶稜塾の黒木清子さんと、ラポール向洋の岩田由美さんの二人が行った。（社）日本栄養士会全国福祉協議会の政安静子会長が、「福祉職域における管理栄養士・栄養士がやらなければならないこと」



好評だった瀧井委員長の講演

と題して講演し、福祉における栄養アセスメントの現状と対策について熱弁が振るわれた模様が紹介された。

続いて、「第6回現場力アップのための栄養士セミナー」に参加した、すこやかセンターこばやしの小笠原かおりさんがその概要を報告。同セミナーのテーマは「今、求められている充実した栄養管理とは」。①最新の症例から学ぶ高齢者の栄養管理、②基礎から学ぶ静脈栄養・経腸栄養、③薬剤知識と食事の関係、④栄養ケアのプランニングとゴール設定——など、各分野の専門家による盛りだくさんの内容で、大変有意義な研修会であったことが説明された。

さらに、同部会の瀧井修委員長（慶稜塾理事長）が、「パーソンセンタードケア」について講演。知能の生理的老化と異常老化の特徴を踏まえ、「認知症を持った人をどうやって理解するかが大事で、そのための想像力と創造力が必要」と、認知症の人の尊厳を大切に接する事の重要性を訴えた。

最後に平成22年度事業計画について検討会を行い、意見を交換した。盛りだくさんの内容で早足の進行であったが、参加者の今後の業務の大きな指針となる研修会となった。

## 施設も在宅も地域の仲間！

### ～在宅支援研究部会研修会～

宮崎県老健協会在宅支援研究部会は、2月27日、宮崎市中心公民館で平成21年度研修会を開いた。県内会員施設から31名が参加し、老健施設と通所リハがより良い相互利用と協力関係を構築するために、両者の連携強化が不可欠であることを学んだ。



この日の研修会では、宮崎県デイケア連絡協議会の田原公彦事務局長（写真上）が『施設も在宅も同じ地域の仲間 一緒に支えていこう』と題し、講演。自らが勤務する医療法人社団三友会いしかわ内科における通所リハビリでの取り組みが紹介された。

同内科通所リハビリでは、在宅支援の具体的な取り組みの一つとして、介護オンコール（緊急電話）による在宅生活の安心提供をはかっている。これは、「通所リハビリは在宅生活を支える役割がある」という考えに基づき、利用時間帯だけのサービスにとどまらず、夜間・休日でも必ず連絡がとれる体制を確立するもの。増加傾向にある独居老人や老老世帯者が助けを求めたいとき、近所にいない子供や、日曜・夜間につながらないかかりつけ病院、会う頻度の少ないケアマネージャーなどには頼みづらい。そこで日頃から密に接し、顔なじみで頼みやすいデイケア職員がその一翼を担おうと、平成18年6月から取り組みが始まった。以来、オンコールが、利用者や家族にとって、不安や悩みをいつでも相談できる拠り所として機能している。

これらを踏まえ、田原事務局長は地域における老健として、①入所から在宅へ向けての役割、②在宅の後方支援施設としての役割、③最期の看取り施設としての役割——の3つの役割が必要である事を強調。「施設も在宅も同じ地域の仲間。お互いを知り、相互乗り入れしながら、活発に意見を交換し、高齢者の、ひいては自分たちの幸せのために協力していこう」と呼びかけた。



「介護オンコール」の取り組みには、高い関心が集まった。

参加した、並木の里の支援相談員、塩谷純子さんは、「既成のしほりにとらわれずに取り組んでいる姿に感動した。『自分の役割じゃないから』と責任放棄せず、利用者のために、できる事を精一杯やっていきたい」と、この日の研修成果を、実践に取り入れる意欲を示した。

**【包括的支援プログラムから脱却する“R4”システム】**

(社) 全国老人保健施設協会(全老健)はこのたび、新しいケアマネジメントシステム「新全老健ケアマネジメント方式～R4システム(R4システム)」を完成させた。従来の三団体版「包括的支援プログラム」から脱却し、施設の役割・機能を反映させた同システムで、利用者ごとの真のニーズの発見と、それを踏まえたプランの実行に向けて大きく前進しそうだ。

**【ニーズアセスメントとプランの実行のために】**

介護保険制度では、施設利用者にもケアプランの作成が義務づけられているものの、①身体や認知等のアセスメントにとらわれて、ニーズアセスメントができていない、②居宅のケアマネジメントが「プランの実行＝各種サービスの提供」であるのに対し、施設においては、必ずしもそれが担保されていない——等の問題があった。全老健では、在宅のケアマネジメントをそのまま

施設に持ち込んでいることが要因であるとし、一昨年九月、「施設ケアマネジメント部会」を発足、新システムの構築に取り組んできた。

「R4システム」は、利用者の老健利用の目的を個々に把握するため、インテークを重視し、ニーズアセスメントや生活機能(ICF)アセスメント等の新しい考え方を導入。在宅復帰と在宅生活支援という、老健施設の二大役割とも密接に関連しているのも特徴だ。

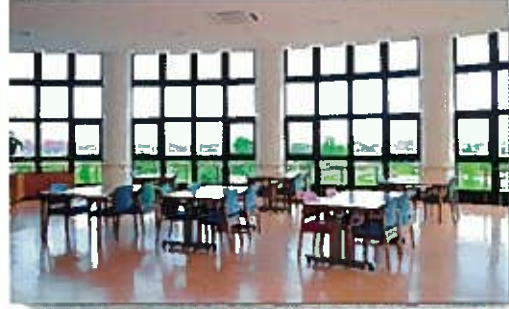
**【県老健協会でも普及・啓発に注力】**

老健の“R”、そして「4つ」のステージおよびアセスメントで構成されることから“R4システム”と命名された。その全貌がわかるのはこれから。宮崎県老健協会高齢者ケアプラン研究部会では、平成22年度事業の柱として、その普及・啓発に乗り出す。老健らしいケアプランの立案と実行に向けて、わかりやすい仕組みとなった同システムで、地域に根ざす老健機能の真価が問われることとなりそうだ。

**ケアプランも、  
CHANGE!!  
by "R4"**



平成3年9月開設  
入所80名、通所リハ40名



明るく広々、最高の見晴らし!!

高級旅館を思わせる「家族宿泊室」

**【しょうぶ苑(唐津市大和町)】**

恵まれた環境のもと、各職種が連携し、ユニットケアによるきめ細かいサービスが提供されていた。

また、看取りの機会の少ない介護職に対する「死への理解」の教育や、管理職に対するリーダーシップ研修、さらには事務長による介護福祉士試験対策勉強会の企画・開催など、「人を育てること」を重視した施設運営が行われていた。

宮崎県老健協会企画広報委員会は先頃、佐賀県内2施設で視察研修を行った。それぞれ独自の取り組みを展開し、利用者やご家族から喜ばれている様子を肌で感じとる事ができた。今後の活動に活かしたい。

**【ケアハイツ虹(唐津市浜玉町)】**

精神科病院の併設施設とあって、専門棟は認知症対応型の回廊作り。広々とした空間で行き届いたケアが行われていた。

折り紙、カラオケ、習字にお茶等々と、レクリエーションが豊富。また、歌に踊りに演劇等々、ボランティアの訪問、実施が多いのも魅力。特に毎週の読書ボランティアは好評で、話に聞き入りながら昔のことを思い出す利用者も数多いとか。

離職する職員が非常に少ない事も、「地域に根ざし、慈愛に満ちたケア目指す」という施設の理念を裏付けるものと言えよう。



美術館のようなエントランス

いずれ劣らぬ健筆揃い!



昭和63年4月開設  
入所80名、通所リハ25名



リレーコーナー

リハビリ

サンヒルきよたけ

長友 太志 さん



学校卒業とともに、平成21年4月、作業療法士として入職しました。それから1年。やっと仕事に慣れてきたところですが、まだまだ勉強中の毎日です。

初めての職場として介護老人保健施設を選んだのは、実習で高齢者の方々と多く接し、高齢者の方々の自立した生活のお手伝いができればと思ったからです。病院に比べ、より生活に密着したリハビリを行えるのが、介護老人保健施設の魅力だと考えたのです。

仕事を始め、入所や通所のリハビリテーションに関わるうち、「自宅や施設での生活を見据えた上で、リハビリを行っていく」ということがとても大切で、難しいものだと感じています。

# 生活考えたリハビリを

印象に残っているのは、住宅環境評価や住宅改修を行い、その情報を含めて担当入所者様の在宅復帰までのリハビリ内容を考え、実施、評価できたことことです。担当のケアマネージャーやご家族との話し合いも重ね、在宅復帰につながりました。入所者様の身体機能の向上をしていくことと同時に、自宅に帰ったときの生活を考えながら環境を整えていくことは、とても難しく勉強になりました。介護職や看護職から日常生活についての情報を収集するなど、他の職種の方と連携をとり、在宅復帰への目標を考えていくことも、大変なためになりました。今後も、他の職種と連携して、生活というものを考えたリハビリテーションを提供していきたいと思っています。

たしかに、それはとても難しいことですが、自分自身もつと成長して、利用者様にあったサービスを提供し、利用者様が喜ばれる姿を多く見られるように頑張っていきたいと思っています。

こんな私の姿を見たいと思う方は、是非サンヒルきよたけに遊びに来てください。笑顔でお待ちしております。

介護

さわやかセンター

月野 義彦 さん



介護の仕事始めて今年で5年になります。私には自分の考え方を変えるきっかけがありました。それまで、介護の仕事はただお世話をすればいいと、仕事をこなしていました。そんな時期、同期のスタッフや仲の良かった先輩が辞めていき、気持ち落ち込んでいた時期がありました。そんな時に若いスタッフと介護について話す機会がありました。普段はまじめに話さないスタッフが自分たちの介護観を真剣に話していて、今まで愚痴ばかり言っていた自分がおかしく感じ、もっと前向きに介護をしてみようと思いました。

ちょっとしたきっかけでしたが、視野が広がり、介護の楽しさを知ることが出来ました。

# 私を変えた「きっかけ」

ある日、上司より新しい委員会を設置するため、委員長をして欲しいとの声がかかりました。名称は「利用者対策委員会」。目的は苦情処理やアンケートの実施でした。

最初の1年は、理想高く様々なことを考えアンケートの実施など行い、スタッフの普段溜まっていた意見を知ることが出来ました。色々なことが結果としてわかってきましたが、本格的にこれからどんな活動を行えばいいかわからないまま苦悩が続き、1年が過ぎようとしていました。

そんな時、委員会のメンバーより、各委員会の活動を活発にする為に、月に1回各委員会のメンバーが集まり、報告や話し合いをしたらどうかという意見があり、話を聞いた時に私は、この委員会の進むべき道が見えたような気がしました。この委員会が主導となり、各委員会を動かしていくことが大事なんじゃないか。質の高いケアを求めるには、各部署の連携が不可欠であり、職種の混ざり合った委員会だからこそチームケアを目指しやすいのではないかと考えました。現在、活動は継続中です。

私は、きっかけがあったからこそ、頑張れました。スタッフの支えがなければここまで介護の仕事を考えることはなかったと思います。今では介護の仕事は天職なのではないかと思っています。だからこそもっとケアに対して上を目指したい。最近読んだ本に意味深い文がありました。それは「介護の仕事は誰にでも出来るが利用される方々の能力をあげることの出来るのは専門職のみ」という文です。私は、この言葉を目指しこれからの介護を有意義なものにしていきたいと思っています。

## ケアマネ

マイ・グリーンヒル  
松田 なが子 さん



当施設の母体となる医療法人隆誠会 延岡保養園は、県北の方なら誰もがご存じかと思いますが、古くから地域の精神科医療に貢献し、今年で創立60周年の節目を迎えました。

介護老人保健施設 マイ・グリーンヒルは、海沿いに建つ延岡保養園から、道を挟んだ一角に、平成10年4月1日に開設され、介護保険制度開始と共に運営されています。

私は、10年近く在宅支援関係の仕事をしてきましたが、昨年の4月から施設ケアマネージャーとして勤務しています。半年以上を経過した今でも、頭で思っていたことと、現実の開きに戸惑うことの連続です。長年の慣れた職場を離れ、初めて自分の力がどれほどのものか試されている様です。唯一救われているのは、施設長やケア部長は勿論のこと、スタッフの皆さんがとても親切で、優しい人柄であるということです。介護に対する姿勢もとてもひた向きで、縁の下の力持ち的に目立たず熱心に援助していると感じています。

## 施設の役割意識して

当施設は重度認知症の方でも対応出来る、認知症専門棟（40床）を有する介護老人保健施設です。在宅支援関係の仕事をしていた頃は、処遇困難ケースの相談に乗って頂いたり、徘徊や認知症の周辺症状が強く、他の施設で受け入れが困難だったケースを受け入れて頂いたりもしました。重度認知症の場合、家族を巻き込んで行政が動かなければ解決しない問題が多く、結果的に精神科入院というケースも少なくありません。内服コントロールなどで落ち着いたとしても、在宅復帰は大概のケースが困難です。高齢になって病院や施設を転々としなければならない現実、多くの方の全体像から見えて来るものは、家族と生活していても、施設で生活していても行きつくところの悩みは、皆同じではないかと言うことです。そういった現実を踏まえた上で、看護、介護スタッフを始め各専門職の協力を得ながら、利用者やご家族の声に耳を傾け、少しでも満足が得られる、方向性を見いだせるプランを展開していけるよう、地域の中での当施設の位置づけ、役割を意識しながら、取り組んでいきたいと考えます。

## 支援相談

菜花園

池山 泰将 さん



当施設は平成7年10月に開設。私はその10年目を迎えた平成17年に入職しました。介護職として1年勤め、支援相談員になってからは4年目になります。

この5年間を振り返ると、どんな仕事でも楽なものはないでしょうが、介護に関わる仕事は本当に大変だということを思います。大変な仕事ですが、なぜこれまで続けてこられたのか考えたとき、ご利用者様とご家族、上司や同僚など多くの方に支えられてきたことを実感します。

学生時代は介護・福祉の仕事を、要支援者への一方的な支援と考えていました。しかし、私自身もご利用者様とご家族に支えられていたのです。「ありがとう」「大変やね」「赤ちゃんができたから見せに来ないよ」など何気ない言葉とその時の笑顔、私のことを気遣ってくださっていることがわかります。上司や同僚にしても同じです。それが励みになって私はがんばってこられたのだと思います。

## 大切なものは一つじゃない

同じように、私自身も支援相談員として、または部下として同僚として、周りの方の支えとなっているのかを問うと、なっているとは言えません。在宅復帰の取り組みやご利用者様・ご家族のニーズへの対応も不十分です。現場で働くスタッフの皆さんが、より良いサービスを提供できるように、働きやすい環境をつくるということについて、部下としても同僚としても、もっとできること、しなければならないことがあります。矛盾していますが、一番大切なものは一つだけではなくいくつもあると思います。ご利用者様・ご家族のことも第一に考えていますが、現場で働くスタッフのことも第一に考えたいのです。スタッフのことも施設全体のことも目を向け、周囲の人を支えられるようになりたいと思います。

私は介護支援専門員の資格取得も目指しており、今とは違う形で介護・福祉の仕事に携わることもあるかもしれませんが、今後どのような形であっても、この思いを持って仕事に励みたいと思います。

人気の

# オリジナルメニュー

長寿の里

管理栄養士 林 美樹子 さん



宮崎ですが・・・

## 明日にはお肌ツヤツヤ♪鶏飯(けいはん)

鶏飯は奄美大島の代表的な郷土料理の1つで、昔からお客様をもてなす料理とされてきました。藩政時代、薩摩藩での砂糖取立ての厳しさの中で生まれた料理と言われ、コラーゲンたっぷり、サラサラと食べやすく、長寿の里でも人気メニューの一つです。

<材料:1人分> ごはん 軽く1杯、鶏ささみ15g、卵→塩を少し加え、錦糸卵にする、奈良漬 5g(お好みで)、干し椎茸→しょうゆ、砂糖で煮る。もみのり・ねぎ 適量、鶏ガラ・生姜・長ネギ 適量→鶏ガラスープをつくる

<作り方>

- ① 鶏ガラスープをつくり、アクをとりながら薄口しょうゆ、塩、酒、みりんで調味する。
- ② 鶏ささみ→ゆがいて細くさく、干し椎茸→奈良漬→細切、ねぎ→小口切りにし、皿に盛り付ける。
- ③ ごはんの上に具を飾り、あつあつのスープをかけて召し上がれ!!



## 食欲のない夏場にサッパリ♪蒸しなすの酢の物

<材料:1人分> なす40g、みょうが5g、大葉1/2枚、おろし生姜 少々

☆調味液☆ 酢・白砂糖・薄口しょうゆ→4:3:3で混ぜ合わせる

<作り方>

- ① なすを焼きなすにし、食べやすい大きさに切り、器に盛り付ける。
- ② せん切りにしたみょうが、しその葉を調味液に混ぜて①の上にかける。



## ☆長寿の里紹介☆



串間市は宮崎県の最南端に位置し、都城市、日南市、そして鹿児島県志布志市と隣接。東に日向灘、南に志布志湾を眺めることができます。70km以上も続く海岸線は、日南海岸国定公園に属し、都井岬の少し北部にある恋ヶ浦はサーファーのメッカとしても全国的に有名で、風光明媚な景色に魅せられ、移住して来られる方も多いと聞きます。当施設近辺は大東(おおつか)と呼ばれ全国で有数の芋の産地として有名です。そんな自然豊かな環境の中、医療法人秀英会は英医院を母体として、「ふれあい、やさしさ、思いやり」をモットーに利用者様に喜んで頂けるサービスを目指し、頑張っています。

### 【編集後記】

ツイッターの勢いが止まらない。説明するまでもなかるうが、百四十文字以内の「つぶやき」を投稿し合いながらつながっていくコミュニケーションツール。何と言ってもその手軽さと即時性が魅力だ。今年一月の国内アクセス者は四百七十三万人。一年で実に二十四倍の増加だそう。今や東国原知事も常連の一人と聞く。災害時の情報伝達手段としても注目される。

ツイッターに象徴されるように、現代は、実にたやすく言葉のやりとりができるようになった。さほど遠くない未来から現代を振り返るとき、携帯電話は人類史上最大の発明の一つとして語られるのかもしれない。だが、手段は軽快でも、言葉そのものの質量はさきにあらず。その絶対値の変域はゼロから無限大だ。陰に陽に、変幻自在でもある。

「見送る時はわろって(=笑って)じゃ」。平素は寡黙な女性利用者が、論ずように放った一言である。客人はもちろん、家族が出かける時でも笑顔で見送るべし、ということだそう。うだ。そうしなかつたがために、かけがえのない人と突然の永訣をし、悔いを千載に残したのだ、と教えてくれた。彼女の愁嘆のほどは、親指一本で押し表すには、あまりにも重い。

伝達手段が進化した今だからこそ、「言葉の重み」を大事にしたいものだ。思いがけず、前任者から「老健みやざき」のタスキを引き継いだ。戸惑いが無いと言えば嘘になるが、とにかく走り出すしかない。一語、一語。その重みに押し潰されぬよう、はたまた軽さにそめかぬよう、大切に紡いでいきたい。(T)

(社)宮崎県老人保健施設協会

〒880-2112

宮崎市大字小松1-15-8 番地

TEL0998574733947

FAX09985747339647